1　鈴鹿郡の定義について

本書において「鈴鹿郡」とは、1935年（昭和10年）当時の郡域をいう。
※ 鈴鹿郡は、現在、三重県亀山市、鈴鹿市、四日市市等の一部となっている。

2　調査について

(1) 調査目的及び内容

地域において昔から使われてきた固有の呼び名（又は、呼び方）等を明らかにし、記録として残すことを主たる目的とする。

① 昆虫類計40項目（33種）に係る鈴鹿郡の集落での昔の呼び名及び生息状況（別紙1 調査票 参照）
・　調査対象は、生息状況、呼び名の状況、写真判別の容易さ等を考慮し選定
② 各集落における調査対象昆虫類にまつわる事項等

(2) 調査期間

2004年10月から2015年1月

(3) 調査対象年代

1935年（昭和10年）前後（以下「当時」という。）

(4) 調査対象集落（別紙2　調査集落 参照）

郡内において当時以前からある77集落（当時の旧制町村単位で区分し、隣接する集落は併せた場合がある。）とともに、隣接する15集落を含め調査対象とした。

鈴鹿郡
加太村(3)、坂下村(3)、関町(3)、白川村(4)、神辺村(6)、亀山町(9)、昼生村(3)、井田川村(6)、国府村(5)、牧田村(2)、庄野村(2)、高津瀬村(3)、石薬師村(3)、川崎村(5)、野登村(5)、庄内村(4)、深伊沢村(3)、椿村(5)、久間田村(3)

隣接地域
河芸郡　明村(5)、高野尾村(1)、合川村(1)、天名村(1)、河曲村(1)
四日市市・三重郡　塩浜磯津（1)、小山田村(1)、水沢村(1)
甲賀郡　山内村(2)
阿山郡　東柘植村(1)　　※ 当時の旧制町村により区分、( ) は調査集落数

(5) 調査対象者及び被聴き取り者数

① 調査対象者は、当該集落で生まれ育ちの80歳代を中心とした高齢者
② 被聴き取り者数は、合計約450名（隣接地域を含む。）

(6) 調査方法等

① 調査対象昆虫類のカラー写真提示の上での対面聴き取り調査
写真提示に加え、必要に応じ形態等の特徴を口頭で補足説明を行い、聴き取りを実施
② 各集落複数名からの聴き取り
聴取内容の正確性を高めるため、各集落複数名から聴き取りを実施
③ 2段階での調査
・　第一次調査　複数名から聴き取りを行い、すべての集落を調査
・　第二次調査　第一次調査終了後、集落間における呼び名の分布の不整合等について各集落1～2名から再聴き取りを実施
④ その他
地域由来でない標準和名や一般的な和名等が学校教育等により当時既に一般化していた、又は一般化しつつあったと考えられた場合は、被聴き取り者の祖父母等の世代が使用した言葉についても聴き取りを実施

別紙１　調査票（A4版）及び記入上の説明

調査集落名、　（　　）内は調査対象年代当時の旧制町村名

昆虫等の地方名に関する調査票(2)(鈴鹿郡)

調査年月日	調査集落名　(旧町村名)	調査番号
		【　】

聴き取り日（期間）

町村・集落番号、　【 】は調査票一連

分　類	昆虫の名称	生息	集落での呼び名	備　　考
ホタル類	ほたる類（総称）	—		
	・梅雨時期のほたる	—		
	げんじぼたる			
	へいけぼたる			
	ひめぼたる等			
水生昆虫	げんごろう			幼虫：
	みずすまし類			
	あめんぼ類			
	たがめ			
	みずかまきり			
	その他			
トンボ類	とんぼ類（総称）	—		幼虫：
飛翔様態	・水上飛翔又は産卵	—		リング状：
大小区別	大型とんぼ一般			
	・銀色の大型とんぼ			(※　→ギンヤンマに整理)
	・蚊を捕食するとんぼ			(※　→カトリヤンマ等に整理)
	尾部が細い小型とんぼ			(※　→イトトンボ類に整理
場所区別	川辺・水辺のとんぼ			(※　→カワトンボ類に整理)
	藪等日陰のとんぼ			
時期区別	盆時期黄色い中型			(※　→ウスバキトンボに整理)
	秋夕に群れて飛翔			
体色区別	体色からの呼び名			
	尾部の一部が白色			(※　→コシアキトンボに整理)
総合特徴	はぐろとんぼ			
	しおからとんぼ			
	ちょうとんぼ			
その他	その他不明種等			
他の甲虫類	てんとうむし類			
	はんみょう			
	みいでらごみむし			
	こくぞうむし			
	だいこんはむし			
その他	かめむし類			
	あぶらむし類			
	わたむし類			
	ごきぶり類			
	はさみむし類			
	ななふし類			
	うすばかげろうの幼虫			
	かまきり類			卵鞘：

○　＝しばしば見かけられた。
△　＝少なかった。稀。
－　＝いなかった。わからない。

トンボ類は、名付けのもととなった様態・区別等に応じて聴き取り

銀色、黄（金）色、茶色、黒色、縞模様を除く。

・サル（ムシ）＝　「サル」、「サルムシ」を意味する。
・順不同。呼び名の使用状況に注意が必要と考えられた呼び名については、語尾にその状況を示す（主）や（少）等を付記した場合がある。

体色が黄緑は（青）、褐色型は（褐）と付記

M：明治時代
T：大正時代
S：昭和時代

・聴き取りで得られた昆虫類にまつわる事項
・蛍狩りの唄：4つの基本型は、「型」名表記による。

順不同

回答者氏名（生年）	回答者氏名（生年）	回答者氏名（生年）	回答者氏名（生年）	回答者氏名（生年）

別紙２　調査集落（1935 年（昭和 10 年）当時の旧制町村別）

○ 鈴鹿郡

旧制 町村名	町村 番号	調査集落　＜○番号は集落番号＞
加太村	1	①亀山市上加太、②下加太、③関町越川
坂下村	2	①亀山市関町坂下、②関町沓掛、③関町市瀬
関町	3	①亀山市関町久我、②関町古厩、③関町中心街
白川村	4	①亀山市関町鷲山、②関町白木一色、③白木町、④小川町
神辺村	5	①亀山市関町会下、②小野町・関町小野、③木下町、④山下町、⑤太岡寺町、⑥布気町
亀山町	6	①亀山市住山町、②羽若町・亀田町、③椿世町、④野村・南野町、⑤亀山市中心街、⑥和賀町・天神、⑦阿野田町、⑧菅内町・樺野、⑨安知本町・田茂町
昼生村	7	①亀山市三寺町、②中庄町、③下庄町
井田川村	8	①亀山市井尻町・小下町、②和田町・川合町、③亀山市井田川町・鈴鹿市小田町、④鈴鹿市和泉町、⑤西冨田町・中冨田町、⑥中冨田町山
国府村	9	①鈴鹿市八野町、②国府町西之城戸、③国府町、④住吉（国府新田）、⑤平野町
牧田村	10	①鈴鹿市平田・弓削・岡田、②甲斐町
庄野村	11	①鈴鹿市汲川原町、②庄野町
高津瀬村	12	①鈴鹿市広瀬町、②津賀町、③高塚町・加佐登
石薬師村	13	①鈴鹿市上田町、②上野町、③石薬師町
川崎村	14	①亀山市田村町・長明寺町、②田村町名越、③川崎町、④太森町岩森、⑤太森町太田
野登村	15	①亀山市辺法寺町、②両尾町、③安坂山町安楽、④安坂山町池山、⑤安坂山町坂本
庄内村	16	①鈴鹿市東庄内町、②西庄内町南畑、③西庄内町北畑、④西庄内町上野
深伊沢村	17	①鈴鹿市深溝町、②伊船町（伊船野田・伊船新田）、③伊船町・長沢町
椿村	18	①鈴鹿市小岐須町、②小社町、③山本町、④大久保町、⑤四日市市水沢野田町
久間田村	19	①鈴鹿市岸田町・四日市市和無田町　②四日市市鹿間町・鈴鹿市下大久保町、③四日市市南小松町
計		19 町村　　77 集落

○ 隣接地域

区分（郡）	旧制 町村名	郡市 区分	調査集落　＜○番号は集落番号＞
河芸郡	明村	河	①亀山市関町福徳、②関町萩原、③津市芸濃町楠原、④芸濃町林（川原）、⑤亀山市楠平尾町
〃	高野尾村	河	⑥津市高野尾町
〃	合川村	河	⑦鈴鹿市三宅町
〃	天名村	河	⑧鈴鹿市御薗町
〃	河曲村	河	⑨鈴鹿市木田町
四日市市	―	四	①四日市市塩浜磯津
三重郡	小山田村	三	①四日市市山田町
〃	水沢村	三	②四日市市水沢町
甲賀郡	山内村	甲	①甲賀市土山町山女原、②土山町山中
阿山郡	東柘植村	阿	①伊賀市柘植町
計			10 市村　　15 集落

別紙３　第二次調査の主な視点及び調査票記入上の整理事項

① 第二次調査の主な視点

分　類	昆虫の名称	第二次調査の主な視点（「　　」は呼び方）
ホタル類	ほたる類（総称）	「カワボタル」、「タンボボタル」、「ヤブボタル」、「クサボタル」等の有無
	・梅雨時期のほたる	「セツボタル」、「ヤマイボタル」等の有無
	げんじぼたる	「ウシボタル」、「カンベボタル」、「ボタンボタル」等の有無
	へいけぼたる	「コメボタル」等の有無
	ひめぼたる等	光り方の異なる小型ホタルの認識とその呼び名
水生昆虫	げんごろう	幼虫の呼び名
	みずすまし類	「タウエムシ」、「チンチンコンベ」等の分布
	あめんぼ類	「アメリカ」、「シオフリ」等の分布
	たがめ	「ガモジ」、「ガエルバソミ」等の有無
	みずかまきり	「ミズカキ」、「ミズキリ」の有無
	その他	「カミツカミ」、「スイスイ」等の有無
トンボ類	とんぼ類（総称）	幼虫の呼び名「ヤゴロ」の有無
飛翔様態	・水上飛翔又は産卵	「スイスイトンボ」の有無
大小区別	大型とんぼ一般	「オニヤマトンボ」、「ゲンジトンボ」等の有無
	・銀色の大型とんぼ	「ギントンボ」、「ギンヤマトンボ」の有無
	・蚊を捕食するとんぼ	「カークイトンボ」、「カトリトンボ」等の有無
	尾部が細い小型とんぼ	「イトヒキトンボ」、「イトヨリトンボ」、「ハリガネトンボ」等の有無
場所区別	川辺・水辺のとんぼ	「カワトンボ」、「ミズトンボ」等の有無
	藪等日陰のとんぼ	「ヤブトンボ」等の有無
時期区別	盆時期黄色い中型	「シューロトンボ」、「ショーロトンボ」、「ボントンボ」等の有無
	秋夕に群れて飛翔	「ニシカゼトンボ」、「ヒヨリトンボ」、「ユーヤケトンボ」等の有無
体色区別	体色からの呼び名	「アカトンボ」以外の色名のついた呼び名の有無
	尾部の一部が白色	「ヘータイトンボ」、「ホタルトンボ」等の有無
総合特徴	はぐろとんぼ	「オハグロトンボ」、「クロトンボ」等の有無
	しおからとんぼ	「ムギカラトンボ」等の有無
	ちょうとんぼ	「ヒコーキトンボ」の有無
その他	その他不明種等	―
他の甲虫類	てんとうむし類	「モンツキ」等の有無
	はんみょう	―
	みいでらごみむし	―
	こくぞうむし	―
	だいこんはむし	「サル」等の有無
その他	かめむし類	「クサムシ」、「ドンガメ」等の有無
	あぶらむし類	「コア」と「ココメ」の分布
	わたむし類	―
	ごきぶり類	―
	はさみむし類	「ケツバソミ」、「シリバソミ」等の有無
	ななふし類	「アオドカケ」、「フシオレ」等の有無
	うすばかげろうの幼虫	「スナモグリ」、「トンゴロ」等の有無
	かまきり類	「アオカマキリ」、「オガミ」、「カレハ」等の有無

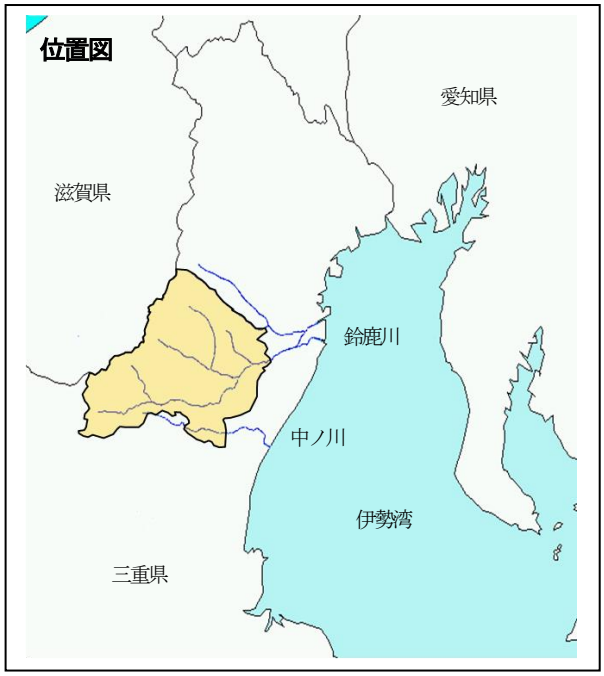
② 調査票記入上の整理事項

トンボ類は種類が多いことに加え、その呼び名は一部の特徴的な種を除き、体の大小や生息場所、時期、体色といった様態等から名付けられていたようであったことから、種別での呼び名との関係性をできるだけとりつつ、名付けのもととなった様態等に即する形で呼び名の調査・整理を行った。

なお、対象種としての同定は他地域での種別の呼び名を参考にするとともに、特徴からの推定による場合がある。

3　鈴鹿郡について

(1) 鈴鹿郡の概況



1935 年当時の鈴鹿郡は、三重県北部に位置し、滋賀県との県境をなす鈴鹿山脈の南部から伊勢湾に向い東に開けた伊勢平野の一部からなる地域であった。

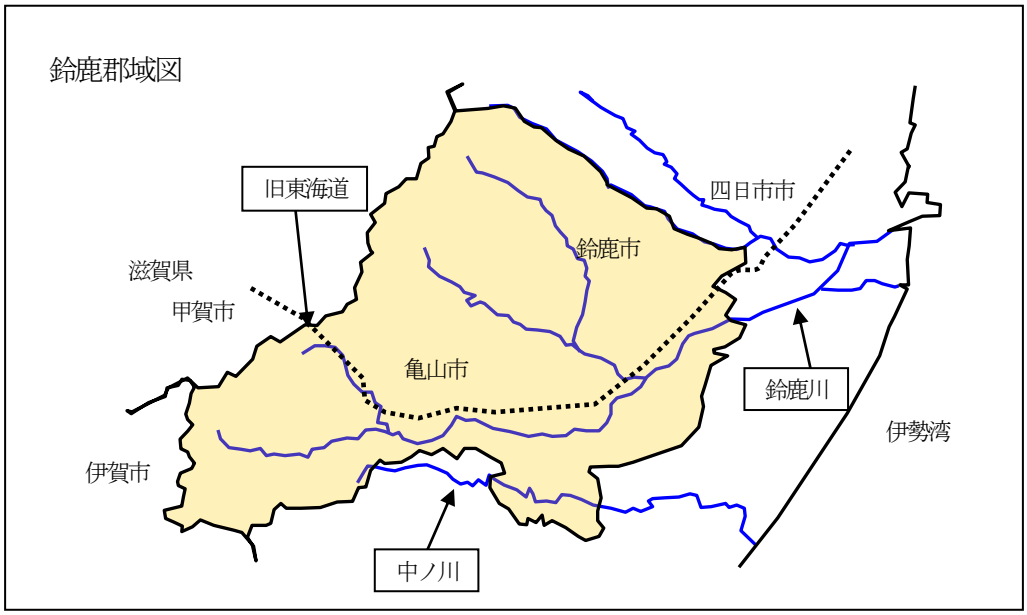
当時の鈴鹿郡は 19 町村からなり、現在では亀山市（大部分）、鈴鹿市（中・北西部）、四日市市（南部）、また、伊賀市（一ツ家）の一部となっている。

1942 年に国府村、牧田村等 14 町村（河芸郡町村を含む。）が合併し鈴鹿市に、1954 年には亀山町、昼生村等 5 町村が合併し亀山市となるとともに、翌 1955 年には関町、加太村及び坂下村の 3 町村が合併し、関町となった。こうした核となる合併に続き、合併せず残った地域の亀山市、鈴鹿市、四日市市への編入等が行われるとともに、1956 年には鈴鹿郡関町大字加太一ツ家（面積： 0.2k ㎡）は分水界を越えて阿山郡柘植町に編入された。そして、2005 年 1 月には亀山市と関町が合併し現在の亀山市となり、「鈴鹿郡」はなくなった。

時代を遡り江戸時代の幕藩体制下にあっては、当時の亀山藩が鈴鹿川流域の大部分を藩領としていたことから、鈴鹿郡は亀山藩領と重なる部分が多く、異なるのは津藩領であった郡南西部に位置する加太地区から関町古厩にかけて、また、久居藩領であった郡南東部に位置する安知本町から下庄町にかけての地域等であった。

主要な街道としては、鈴鹿川沿いに郡内を東西に横断する東海道が整備され、昔より人の往来の中心的な役割を果たした。

郡内を流れる主な河川としては、鈴鹿山脈南部に位置する高畑山（標高 773m）を水源とし東流し、伊勢湾に注ぐ鈴鹿川（１級河川、幹線流路延長約 38km）と、その南にあり同様に東流し伊勢湾に注ぐ中ノ川（2 級河川、同約 21km）がある。



4　調査結果のまとめ

(1) 主な名付け方等

体色、様態等から様々な名付け方がみられ、主な例としては次のとおりである。

区分	呼び名例
体色	赤色：「アカトンボ」（対象種：アキアカネ等） 青・黄緑色：「アオトンボ」（対象種：アオヤンマ） 黄緑色：「アオカマキリ」（対象種：カマキリ類） 白色：「シロトンボ」（対象種：シオカラトンボ類） 灰色：「ハイイロトンボ」（対象種：シオカラトンボ類） 部分的な白色：「ホタルトンボ」、「デンキトンボ」（対象種：コシアキトンボ） 黄（金）色：「キートンボ」、「コガネトンボ」（対象種：主にウスバキトンボ） 褐色（茶色）：「カレ」、「カレハカマキリ」（対象種：カマキリ類（褐色型）） 銀色：「ギントンボ」、「ギンヤマトンボ」（対象種：ギンヤンマ） 黒色：「クロトンボ」、「カラストンボ」（対象種：ハグロトンボ） 縞模様：「シマトンボ」（対象種：オニヤンマ等）
大きさ等	大型：「ウシボタル」、「ボタンボタル」（対象種：ゲンジボタル） 〃　：「ヤマトンボ」、「トノサマトンボ」（対象種：オニヤンマ等） 小型：「コメボタル」、「コゴメボタル」（対象種：ヘイケボタル等） 細型：「イトヨリトンボ」、「ハリガネトンボ」（対象種：イトトンボ類）
紋様	七つの黒い紋様：「シチグロテントームシ」（対象種：ナナホシテントウ）
出現時期	梅雨時期：「セツボタル」、「ツユボタル」（対象種：ヘイケボタル） 盆：「ボントンボ」、「ショーロトンボ」（対象種：ウスバキトンボ） 秋：「アキトンボ」、「ニシカゼトンボ」（対象種：アキアカネ等） 秋の夕方：「ユーグレトンボ」、「ヒグレトンボ」（対象種：アキアカネ等） 秋の好天時：「ユーヤケトンボ」、「ヒヨリトンボ」（対象種:アキアカネ等）
生息場所	川辺・水辺：「カワボタル」、「ミズボタル」（対象種：ホタル類） 〃　　：「カワトンボ」、「ミズトンボ」（対象種：カワトンボ類） 田：「タンボボタル」（対象種：ヘイケボタル） 藪：「ヤブボタル」（対象種：ヘイケボタル等） 〃：「ヤブトンボ」（対象種：ハグロトンボ、ヤブヤンマ、不明種） 草藁：「クサボタル」（対象種：ヘイケボタル等） 神社：「ミヤボタル」（対象種：ゲンジボタル等） 〃　：「ミヤサントンボ」（対象種：ハグロトンボ）
様態	明るいこと（の例え）：「カンベボタル」（対象種：ゲンジボタル） 動き回る：「マイマイコンボ」、「ミズマワシ」（対象種：ミズスマシ類） カエルを捕食：「ガエルバソミ」（対象種：タガメ） 紙をつかむ：「カミツカミ」、「カミバサミ」（対象種：ミズムシ類） 水をかくように進む：「ミズカキ」、「ミズキリ」（対象種：ミズカマキリ） 水上での飛翔又は産卵：「スイスイトンボ」（対象種：トンボ類） 悪臭：「クサムシ」（対象種：ミイデラゴミムシ、カメムシ類） 蚊を捕食：「カークイトンボ」、「カトリトンボ」（対象種：カトリヤンマ等） 道案内をするように飛ぶ：「ミチアンナイ」、「ミチオセ」（対象種：ハンミョウ） 臀部からのガス噴出：「ヘーコキムシ」（対象種：ミイデラゴミムシ） ゴマ粒のように見える：「ゴマ」（対象種：コクゾウムシ） 尾端部の挟む器官：「ケッツバソミ」、「シリバソミ」（対象種：ハサミムシ類） 節があるように見えること：「フシオレ」（対象種：ナナフシ類） 砂に潜る：「スナモグリ」（対象種：ウスバカゲロウの幼虫） 拝むように見える：「オガミ」（対象種：カマキリ類）

⑵ 昆虫類と生活に関係した表現等

呼び名の聴き取りの中で併せて採録した、昆虫類と生活に関係した表現等は次のとおりである。

① ホタル類

ア　ホタル一般

- 「ホタルが家（の中）に入ってくると雨が近い」（伊船野田・新田、伊船・長沢）
- カイコ養殖のネズミ除けに、ホタルを捕ってカイコ棚に入れた。（和田、甲斐）
- ホタル捕りに行くと、「草の中にとまっているホタルは捕るな。マブシが火をとぼしている」と言った。（住吉他多数）
- ゲンジボタルとヘイケボタルの死骸が多く見られることが稀にあり、「合戦をした」と言っていた。（岩森）
- 「ホッタロサン、カネシロサン、夜は提灯竹登り、昼はおかやんの乳飲んで」と言った。（西庄内上野）
- 昔はホタルがボール状に群がって飛んでいたことがあった。（井尻・小下）

イ　ゲンジボタル

- 「ゲンジボタルを見ると目がつぶれる」（井尻・小下）
- 「ゲンジボタルを家に入れると火事になる」（水沢野田、白木）
- 「ゲンジボタルを捕ると家が焼ける」（和田・川合）
- 毎年４月 10 日頃になると、水路から多くのホタルの幼虫が上陸し、道路を横断し土手の石垣に入って行った。道じゅうが幼虫の光で幻想的な景色となり、人が歩くと約１m四方の光が消えた。（甲斐）

ウ　ヘイケボタル

- 「小さいホタルを捕ると貧乏になる」（深溝）
- 「セツボタルはヤマイボタルで病気になるので捕るな」（小岐須他）
- 「セツボタルは病になるので、家の中に入れるな」（井田川・小田）
- 「セツボタル（又は　小さいホタル）を捕ると目が悪くなる」（椿世、和田）
- 「セツボタルは毒」（＝梅雨時期に飛ぶホタルは毒だから捕ってはいけない）（住吉、津賀）
- 「ヤマイボタルを家に持ってくると病気になる」（広瀬）
- 「ホタルは梅雨になると毒になる」（広瀬）
- 初夏に、牛に食べさす草を鈴鹿川の土手に切りに行き、家に持ってくると、夜になるとホタルが舞いだしたものだった。（八野、住吉）

エ　ホタル狩りの唄

- 「ほーほーホータル来い、あっちの水はにーがいぞ、こっちの水はあーまいぞ、いっぱい飲ますに飛ーんで来い（又は　杓もてこい）」（市瀬他）
- 「ほーほーホータル来い、小さな提灯下げて来い、あっちの水はにーがいぞ、こっちの水はあーまいぞ、ほーほーホータル来い」（小川他）
- 「ホッタロサン、カネシロサン、あっちの水はにーがいぞ、こっちの水はあーまいぞ（又は、うーまいぞ）、いっぱい飲ますにじょう持て来い」（東庄内、西庄内上野他）
- 「ほーほーホータル来い、あっちの水はにーがいぞ、こっちの水はあーまいぞ、ほーほーホータル来い」（上野他）

② 水生昆虫

ア　ゲンゴロウ

- 田の草取りをしていると「ヤマメに刺された」と言った。（両尾他多）

イ　ミズスマシ

- 「まいまいこんぼ、どーこんぼ、くるくる回って目がもうて死んでくぞ」と言った。（白木）

③ トンボ類

ア　トンボ一般

・「トンボが家の中に入ってくると雨が降る（又は　近い）」（平野、東庄内）

・「夕方にトンボがたくさん飛ぶと（明日は）晴れ」（亀山、中富田山、池山等）

イ　オニヤンマ

・「ヤマトンボが家（の中）に入ってくると雨（が近い）」（古厩、太岡寺）

ウ　イトトンボ

・　イトトンボに糸をつけて飛ばして遊んだ。（両尾）

エ　ウスバキトンボ

・「シューナトンボが飛ぶと秋」（小川）

オ　アキアカネ等

・「アカトンボを捕ると目が悪くなる」（白木一色他多数）

・「アカトンボを触ると目が悪くなる」（小川、和賀・天神）

・「アカトンボはオショロさんの使いで捕ったら目が悪くなる」（会下、布気）

・「火傷の妙薬なんじゃいな、アカトンボの黒焼きさ」（中庄）

・「アカトンボが飛ぶと盆が来る」（会下）

・「アカトンボが飛ぶと秋」（北畑）

・「西の山からアキアカネが飛んでくると秋の始まり」（汲川原、長明寺・田村）

・「ユーヤケトンボは捕ったらあかん」（和賀・天神）

カ　その他

・　背が高く丸顔で眼鏡をかけた人のことを「カトンボ」と言った。（鷲山）

④　その他の甲虫類

ア　ハンミョウ

・　ミチシルベが道案内をするように前を飛ぶと「オバの茶碗こーんだけ」（＝小さくても十分）と呼んだ。（野村・南野）

⑤　その他

ア　カメムシ類

・「カメムシが多いと冬が寒い」（安知本・田茂）

・「カメムシが多く発生すると台風が来る」（岸田・和無田）

・「カメムシが多いと雪が多い」（上野、池山）

・「カメムシが多いと雪が早い」（伊船野田・新田）

イ　アブラムシ類

・「アブラムシが葉をねぶる」と言った。（下加太）

ウ　ワタムシ類

・「ワタムシ（又は　ワタボーシ）が飛ぶと雨が近い」（亀山中心他）

エ　ハサミムシ類

・　ハサミムシは魚釣りの餌にした。（木下）

オ　ナナフシ類

・「アオドカキを食べたら、マムシがその毒で死ぬ」と言った。（八野）

・「縁の下の土とアオドカケを煎じて飲ませば人が死ぬ」と言った。（安楽）

カ　ウスバカゲロウの幼虫

・　泣き虫の子がいると「泣きみそトンゴロー、穴掘って蹴こめ」と言った。（西庄内上野）

※　カゲロウ（成虫）

・　（電球の傘など）「カゲローが白い所に卵を産み付けるとげが良い、黒い所に産み付けるとげが悪い」（上田）

・　5 月頃に清水の小川上にたくさん飛ぶ小型トンボのようなもの（「イッスンサガリ」）がい

て、「一寸下がり、二寸下がり、三度目に降りよ」と歌いながら箒を振ると、風で降りてきた。（広瀬）

キ　カマキリ類

・「カマキリの黒焼きは喘息に効く」（三寺）
・「カマキリは拝むで殺してはだめ」と言った。（西冨田・中冨田）
・「カマキリ爺さん、鎌を担いで田んぼへ行きます」（山本）
・痩せた人を「カマキリ」と言った。（椿世）
・カマキリは青い色から茶色へと（色が）枯れていくと言った。（辺法寺他多数）
・「カマキリノス（又は　卵）を口に入れておくとよだれが出ない」（白木、石薬師、南畑）
・「カマキリの卵は喘息の薬」（岩森）
・「カマキリの卵の中にアシマキ（＝ハリガネムシ）がたくさん入っている」と言った。（小岐須）
・ハリガネムシが出てきたカマキリは、「カマキリの雄」と呼んでいた。（山下）

(3) 昆虫類の捕獲方法

呼び名の聴き取りの中で併せて採録した、昆虫類の当時の捕獲方法は次のとおりである。

①　ホタル類

・団扇であおってホタルを捕った。（沓掛、久我、汲川原）
・枝の多い笹でホタルを捕った。（越川、古厩他多数）
・ホタルは菜種油を取った菜種がら（又は、麦殻、柴）を少し束ねて、あおってとまらせて捕り、麦から籠に入れた。（鷲山、白木他）
・竹ぼうきでホタルを落として、拾って捕った。捕ったホタルは、丈のある草を入れた酒の五合瓶にたくさん入れて明るく光らせた。（西之城戸他）
・「オトケ」と呼んだ柳の木の枝を束ねたものに留まらせてホタルを捕った。（甲斐）
・古い蚊帳と番線で網を作り、少し長い竹にそれをとりつけて、ホタルを捕まえた。（小社他）

※「夜になると、ヘビもミミズも灯をともすので、草わらに手を入れるな」と言われた。（平田・弓削・岡田）

②　水生昆虫

ア　タガメ

・タガメは、池で小さなカエルをエサに釣りをするとすぐにかかった。（関町中心街）

③　トンボ類

ア　トンボ一般

・トンボの後ろ（又は　前）から、指を大きくゆっくり回しながら、徐々に小さく早く回し近づきトンボを捕った。（多くの集落）
・トンボは枝ぶりがいい竹で押さえ込んで捕った。（白木一色）
・トンボは竹ぼうきで叩いて落として捕った。（大久保他）
・蚊帳の古を使い、網を作り、竹の先につけて、トンボ等を捕った。（八野）
・竹の輪を作り、太い竹の先に突き刺し、輪にクモのエンバリを巻き付け、トンボを捕った。（名越、白木、小川）
・２個の小石を20～40cm程度の長さの糸の両端につなぎ、トンボが来たら放りあげると、トンボがそれを追いかけるため、紐とともに落ちてきて捕った。（小野、中庄他）
・トンボは竹ざおの先に餌を付けた紐をつけ、トンボの前でそれを振って捕った。（菅内・樺野）
・稲の藁の穂の付いた少し長いもの（「にご」）を用意し、先を二つに裂く。丸くあいたら、そっとトンボに近づき、尾をそこに入れ、引っ張れば、輪がすぼまり、尾の部分を捕まえることができた。（南小松）

イ　オニヤンマ

・雌のヤマトンボを捕まえ、竹の先に糸をつけそれを飛ばせ、ホーホー言いながら歩き、雄が

かかってきて絡まったところを捕まえた。（住山）

・　ヤマトンボは、2 個の小石を一定の長さの糸の両端に結びつけ、近くに投げ、餌と勘違いして、絡み付いてきたのを捕った。（安楽）

ウ　ギンヤンマ

・　ギンヤンマを１匹捕まえ、小石をつけた糸をくくりつけ空にほうり上げると、飛んでいた他のギンヤンマが絡みついて、団子状になって落ちてきたものを捕った。（国府）

④　その他の甲虫類

ア　ダイコンハムシ

・　壁土を練って木に巻き付け、ひっつけて捕った。（三寺他）

⑤　その他

ア　ウスバカゲロウの幼虫

・　アリジゴクは息を吹きかけて捕った。（昔はよくイザリ捕りをした）（住吉）